



供 覧	議長	副議長	局長	主幹	係
					



様式第6号(第5条関係)

政務活動費収支報告書

令和 4年 4月 21日

袋井市議会議長 戸塚 哲夫 様

会派名 緑風会
 代表者名 近藤 正美
 経理責任者名 安間 亨

袋井市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、次のとおり令和3年度5月～3月分政務活動費の収支報告をいたします。

1 収入 政務活動費 625,006円 (利息6円を含む)

2 支出

項目	金額	備考
1 調査研究費	251,600円	岐阜県瑞浪市/京都府木津川市
2 研修費	50,000円	新人議員セミナー
3 広報費	250,000円	会派広報印刷代
4 広聴費		
5 要請・陳情活動費		
6 会議費		
7 資料作成費		
8 資料購入費		
9 人件費		
10 事務所費	110,000円	タブレット端末利用負担金
合計	661,600円	

3 残額 △36,594円 /

(注)備考欄へ主たる支出の内訳を記載するとともに、関係の領収書等を添付すること。

■ 利息決算のお知らせ



毎度格別のお引立てにあずかりありがとうございます。
 今期の利息計算の結果、右記のとおりお手続きさせていただきましたので、お知らせいたします。
 なお、ご不明な点がございましたら当店までお問い合わせください。

ご連絡欄

作成日 令和 3年 9月20日

貯金種類		お客様番号	口座番号
[不明]		[不明]	[不明]
利息振替日	令和 3年 9月21日		
利息計算期間	令和 3年 3月22日 より 令和 3年 9月20日 まで		
貯金利息			4
利子税	国 税	0	
	地 方 税		
税引後利息			4
貸 借 利 息			0
保 証 料			0
利息決算後残高			1, 375, 004
(金額単位：円)			
国税には、復興特別所得税が附加されています。			

返納通知書・領収書

発行主管課名	総務係	36003
令和 3年度	一般会計	
科目	款	項 目 節 細節 細々節
	1	- 1 - 1 - 18 - 632 - 1
伝票番号	0026435 - 001	
納入者 住所	袋井市新屋1-1-1	
氏名	緑風会 伊藤 謙一 様 会派長	
下記の納期限までにお支払い ください。 令和 年 月 日		
		袋井市長 
納入期限	令和 年 月 日	
納入金額	¥750,000	
納入目的	令和3年度政務活動費（5月～3月分）	
上記のとおり領収しました。		
袋井市指定金融機関等		
納入場所		
<small>下記の金融機関の本店又は支店</small> 静岡銀行 遠州中央農業協同組合 スルガ銀行 浜松管田信用金庫 みずほ銀行 島田掛川信用金庫 清水銀行 静岡県労働金庫		

(納入者用) 静岡県 袋井市



(様式 4)

物品購入等支出報告書

令和3年11月2日

会派代表者 様

会派名 緑風会

氏名 安間 亨

項 目 (該当項目に○印)	1 調査研究費 ② 研修費 3 広報費 4 広聴費 5 要請・陳情活動費 6 会議費 7 資料作成費 8 資料購入費 10 事務所費 (9 人件費は別の任意様式)
金 額	50,000円
支出にかかる内訳 ▶ 品名 ▶ 数量 ▶ 年月日 等	新人議員セミナー受講料 講師：廣瀬和彦 演題：「議員・議会はここまでできる！」
購 入 先	(株) 地方議会総合研究所 ,
支 出 年 月 日	令和3年11月2日 ,

※裏面に領収書添付

(会派の広報は、発行後議会事務局に1部提出してください。)

領収証

No. _____

緑風会 村松和幸 様

2021年11月2日

金額 **¥25,000**

内	
消費税等	
現金	

但 11月2日セミナー受講料として
上記正に領収いたしました

収入印紙

〒112-0011

東京都文京区千石2-34-6

株式会社 地方議会総合研究所



領収証

No. _____

緑風会 安間亨 様

2021年11月2日

金額 **¥25,000**

内	
消費税等	
現金	

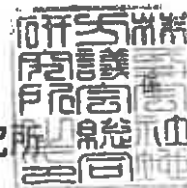
但 11月2日セミナー受講料として
上記正に領収いたしました

収入印紙



〒112-0011

東京都文京区千石2-34-6

株式会社 地方議会総合研究所



(様式2)

確認	会派代表者	経理責任者
		

供覧	議長	副議長	局長	主幹	係長	係
						

調査研究・研修計画書

令和3年10月20日

袋井市議会議長 戸塚 哲夫 様

会派名 緑風会
氏名 近藤 正美

参加予定議員名	村松和幸 安間 亨 《計 2名》
期 間	令和3年 11月 2日 (火) 《0泊1日》
調査研究研修先	新人議員の「地方議会セミナー」への参加 ・各自Zoomでオンライン受講 ・講師：廣瀬和彦 (株)地方議会総合研究所代表取締役 元全国市議会議長会法制参事 ・演題：「議員・議会はここまでできる！」
概算費用	25,000円/1人

※視察行程表を添付してください。

(様 式 2)

調査研究・研修の目的及び市政との関連性

(調査研究先・研修先ごとにそれぞれ記入)

今期、初当選した市議会議員の人たちは、通常の間であればさまざまな視察研修やセミナーへの参加により、市議会議員としての知識や経験を得ることができるが、コロナ禍によりその機会が少ない現状にある。

このことから、別紙のように、地方議員の資質向上のために行われる地方議会セミナーへオンラインにより参加することにより研鑽を深め、今後、議会人として本内容を行政の施策や方針への提言に資するよう努める。

同時開催！
オンラインセミナー

議員・職員のための

議員・議会 ～議員・議会の権限を知る～ はここまでできる！

11月2日(火) in 東京



講師：**廣瀬和彦**

【(株)地方議会総合研究所代表取締役
元全国市議会議長会法制参事】

慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程卒。明治大学政経学部講師・明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科講師等として活躍。著書は、「Q&A議会運営ハンドブック」「地方議員ハンドブック」「政務調査費ハンドブック」(すべてぎょうせい)など多数。

10:00～13:00

議員ができること

1. 議員の役割とは
2. 議案の提出・修正はどこまでできるか
3. 発言権の範囲と留意点
4. 請求権・異議・審査等の申立権の要件と効果
5. 表決権と棄権の捉え方
6. 請願紹介権の制約と問題 等

14:00～17:00

議会ができること

1. 議会の役割とは
2. 議決権の範囲と活用手法
3. 効果的な選挙権行使
4. 調査権はどこまで認められるか
5. 意見書・請願等に議会ができること
6. 資格決定・懲罰の判断と留意点 等

お申込みはホームページからお願いいたします。

議会総研



※ホームページからお申込みいただけない場合は、
下記FAX申込書にご記入の上、事務局宛にお送り下さい。

<https://www.gikaisoken.jp>

参加希望講座のチェックボックスに
 をお願いいたします。

FAX 申込書 ➡ 03-6912-2280

フリガナ お名前	-----	
所属先名		
領収書 お宛名		
住所	(〒 -)	
TEL	()	-
FAX	()	-
E-mail	@	



11月2日(火) 10:00～13:00 東京

議員ができること



11月2日(火) 14:00～17:00 東京

議会ができること

※オンラインによる受講をご希望される方は、
チェックボックスにをお願いいたします。

オンライン受講

※オンライン受講ご希望の方は必ずE-mailをご記入ください。

★キャンセルは7日前までにメールまたはFAXにてご連絡ください。

※お申込み後、事務局から受講確認書をメールまたはFAXにてご送付させていただきます。

※受講確認書をご覧いただき、受講料は事前にお振込みをお願いいたします。

※お一人様につき1つの講座の申し込みが必要です。1つの講座の申し込みで複数人が視聴することはできません。

受講料

各講座受講 15,000円(税込)

2講座受講 25,000円(税込)

開催場所

アットビジネスセンター池袋駅前別館

JR山手線、埼京線、東武東上線、西武池袋線

地下鉄丸の内線/有楽町線/副都心線

池袋駅東口地下鉄32番出口 徒歩10秒



お問い合わせ・事務局

※各会場の詳細地図は、当研究所ホームページのセミナー会場に掲載しておりますのでご覧ください。





(株)地方議会総合研究所

112-0011 東京都文京区千石 2-34-6

<https://www.gikaisoken.jp>

TEL 03-6912-1930 FAX 03-6912-2280

(様式3)

確認	会派代表者	経理責任者	供 覧	議長	副議長	局長	主幹	係長	係
									

調査研究・研修報告書

令和3年 11月 15日

袋井市議会議長 戸塚 哲夫 様

会派名 緑風会
氏名 安間 亨

参加議員名	村松 和幸 安間 亨 《計2名》
期 間	令和3年 11月 2日 《0泊1日》
調査研究研修先	新人議員の「地方議会セミナー」への参加 ・各自 Zoom でオンライン受講 ・講師：廣瀬和彦（株）地方議会総合研究所代表取締役 元全国市議会議長会法制参事 ・演題：「議員・議会はここまでできる！」
考察特記事項	

(様式3)

調査研修 期 間	令和3年11月2日	参加者 議員名	村松 和幸
<p style="text-align: center;">調査研究・研修結果及び所見 議員ができること・議会ができること</p> <p>当日は、自宅でオンラインにて、午前に「議員ができること」、午後に「議会ができること」の講義を受けた。講師は(株)地方議会総合研究所 代表取締役 廣瀬 和彦 先生</p> <p>議員ができることでは、住民全体の代表者としての議員の役割や義務を資料を基に説明をしていただいた。</p> <p>① 多種多様な長だけでは把握しきれない様々な地域における問題・課題を把握すること ② 多様な民意を執行機関に伝え、住民と執行機関の懸け橋となり、共通認識を執行機関に持たせること。 ③ 住民の代表として議会の審議において良心に従い十分な討議を行うこと。 ④ 住民全体の代表者、奉仕者として地域全体の公共利益を考えて表決に望むこと。</p> <p>議員は自らの地元や選挙区、後援者等の限られた特定の代表ではなく、当該自治体住民全体の代表者であり、選挙権を有する者だけの代表者でもないことに留意が必要である。また、自己の信念に基づき発言・表決をし、多様な住民の意思をできるだけ公正かつ忠実に議会に反映させなければならない。</p> <p>議会ができることでは、議会のあるべき姿として議事機関・住民の代表機関・立法機関・監視機関としての役割を資料を基に説明していただいた。</p> <p>① 多種多様な住民の意思を地方行政に反映させるために、議会の審議において十分な議員間における討議がもとめられ、施策に対して優先順位をつけることが重要である。 ② 住民代表の機関である議会の意思が住民意思を反映するものとみなされる趣旨で、議会報告会や意見交換会の開催や議会によるパブリックコメントの実施等が必要。</p>			

- ③ 立法機関として、団体意思決定議案の提案や機関意思決定議案による提案・提言
- ④ 監視機関として、予算・決算・契約等の議決権限を有する案件の審議等によるチェックや一般質問におけるチェック

資料の中にある様々な例やデータで分かりやすく講義をしていただいた。それでもまだ慣れないこともあり、わからない言葉や、事例があったのも事実である。これからさらに勉強を重ね、市民に信頼される議員になれるよう努力していく。

以上

(様 式 3)

調査研修 期 間	令和3年 11月 2日	参加者 議員名	安間 亨
調査研究・研修結果及び所見 (参加議員それぞれが記入)			
<p>新型コロナ感染拡大により対外的な活動や視察が制限されるなか、今回の「地方議会セミナー」への参加は非常に有意義なものであり、地方議員・議会の役割や在り方について、改めて知識や理解を深めることができた。</p>			
<p>近年、全国の自治体で議会の ICT 化が進んでいるが、令和元年12月末時点において、電子表決（押しボタン式表決）システムを導入している市議会は、全815市中126市、全体の15.5%。特に iPad を用いた電子表決システムを採用する地方議会が増えてきており、茨城県取手市は、ZOOM と SIDEBOOKS の両方を使用し、オンライン委員会において、電子表決を実施するところまで進んでいる。昨今のコロナ禍におけるテレワーク・リモートワークの推進の流れもあり、あくまで私見ではあるが、本市も、電子表決やオンライン委員会の試験的導入を検討すべきではなかろうか。</p>			
<p>また、講師の廣瀬先生から、常日頃の知識のアップデートとして、総務省の「地方自治月報」が有益であること、そして、一議員として、総務省の「決算カード」で本市の過去20年分の決算の推移は把握するべきである、とのアドバイスを頂戴した。</p>			
<p>今回得た知見を基に、自分自身の研鑽に励み、今後の活動に役立てていきたい。</p>			

(様式 4)

物品購入等支出報告書

令和3年11月11日

会派代表者 様

会派名 緑風会

氏名 安間 亨

項目 (該当項目に○印)	① 調査研究費 2 研修費 3 広報費 4 広聴費 5 要請・陳情活動費 6 会議費 7 資料作成費 8 資料購入費 10 事務所費 (9 人件費は別の任意様式)
金額	67,900円
支出にかかる内訳 ▶ 品名 ▶ 数量 ▶ 年月日 等	令和3年11月11日 岐阜県瑞浪市役所 (瑞浪市クリーンセンター) 旅費 @ 13,580 × 5名 = 67,900
購入先	
支出年月日	令和3年11月11日

※裏面に領収書添付

(会派の広報は、発行後議会事務局に1部提出してください。)

(様式2)

確認	会派代表者	経理責任者
		

供覧	議長	副議長	局長	主幹	係長	係
						

調査研究・研修計画書

令和3年10月22日

袋井市議会議長 戸塚 哲夫 様

会派名 緑風会
氏名 近藤 正美

参加予定議員名	近藤正美 伊藤謙一 大場正昭 村松和幸 安間 亨 《計 5名》
期 間	令和3年 11月11日(木) 《0泊1日》
調査研究研修先	岐阜県瑞浪市役所(瑞浪市クリーンセンター) 〒509-6195 岐阜県瑞浪市上平町1-1 (〒509-6251 岐阜県瑞浪市日吉町258-76) ・会派による視察研修 「ごみ処理及び削減の取り組みについて」
概算費用	67,900円(13,580円×5名)

※視察行程表を添付してください。

(様式 2)

調査研究・研修の目的及び市政との関連性

(調査研究先・研修先ごとにそれぞれ記入)

瑞浪市は、これまで未来の環境を見据え、最先端技術を導入して全く新しいごみ処理のかたちを考え、先進的に推進してきた都市である。暮らしやすさとともに、人と地球にやさしいまちづくりを目指す上で、循環型社会の実現とゼロエミッションの達成は全国どの市町も大変重要な課題である。

そこで、ごみ問題に取り組む本市として、ごみの減量化、施設の在り方等について先進のノウハウを研修し、リサイクル社会への貢献となるよう、課題等も含めてさらに研修を深め、今回の視察研修で得た知識やノウハウを、今後の行政の施策・方針の参考に資する提言となるよう努めたい。

静岡県袋井市議会会派「緑風会」研修について

1 期 日

令和3年11月11日（木）（1日）

2 研修先及び研修内容

10:00～11:30

岐阜県瑞浪市役所（瑞浪市クリーンセンター）
「ごみ処理及び削減の取組について」

3 参加者

袋井市議会会派「緑風会」所属議員（5名） … 別添名簿のとおり

4 行 程

11月11日（木）

J R 袋井駅（7:10 迄に集合）

J R 袋井駅（7:17 発）～ J R 東海道本線（普通）～

J R 浜松駅（7:36 着・7:49 発）～ J R 東海道新幹線（こだま767号）～

J R 名古屋駅（8:37 着・9:00 発）～ J R（特急ワイドビューしなの5号）～

J R 多治見駅（9:22 着・9:27 発）～ J R 中央本線～

J R 瑞浪駅（9:39 着）

* 瑞浪駅前から瑞浪市様公用車にて移動

研 修 10:00～11:30

岐阜県瑞浪市役所（瑞浪市クリーンセンター）

「ごみ処理及び削減の取組について」

* 研修後、瑞浪市様公用車にて移動。

駅周辺で昼食

J R 瑞浪駅（13:05 発）～ J R 中央本線（快速）～

J R 名古屋駅（13:57 発・14:08 着）～ J R 東海道新幹線（こだま728号）～

J R 浜松駅（14:53 発・15:10 着）～ J R 東海道本線（普通）～

J R 袋井駅（15:28 着）

静岡県袋井市議会会派「緑風会」研修名簿

NO	会派	氏名	ふりがな	備考
1	緑風会	近藤 正美	こんどう まさみ	会派長
2	〃	大場 正昭	おおば まさあき	
3	〃	伊藤 謙一	いとう けんいち	副議長
4	〃	村松 和幸	むらまつ かずゆき	
5	〃	安間 亨	あんま とおる	

路程・運賃明細書

月・日	区 間	路程(km)	運 賃	新幹線 特急料金	特急料金 急行料金	航空運賃	車 賃	日 当	宿 泊 料 (1泊2食付)	計
11月11日	袋井～浜松	19	3,080							3,080
	浜松～名古屋	108.9		3,060						3,060
	名古屋～瑞浪	50.1								
	(行政視察)	(178.0)								
	瑞浪～名古屋	50.1	3,080							3,080
	名古屋～浜松	108.9		3,060						3,060
	浜松～袋井	19						1,300		1,300
		(178.0)								
	計	356.0	6,160	6,120	0	0	0	1,300	0	13,580

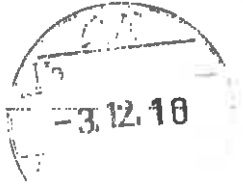
議会事務局 大高11/5確認済



(様式3)

確認	会派代表者	経理責任者

供覧	議長	副議長	局長	主幹	係長	係



調査研究・研修報告書

令和3年11月22日

袋井市議会議長 戸塚哲夫 様

会派名 緑風会

氏名 近藤 正美

参加議員名	近藤正美、伊藤謙一、大場正昭、村松和幸、安間亨 《計 5 名》
期間	令和3年11月11日（木）～ 令和3年11月11日（木） 《 0 泊 1 日 》
調査研究・研修先	岐阜県瑞浪市 ゴミ減量化及び有料化の取り組みに関して
考察特記事項	

(様式 3)

調査研修 期 間	令和3年11月11日(木) (0泊1日)	参加者 議員名	近藤 正美
<p style="text-align: center;">調査研究・研修結果及び所見</p> <p>11月11日(木) 「ごみ処理及び削減の取り組みについて」 (岐阜県瑞浪市)</p> <p>当日は、瑞浪市・加藤輔之市議会議長、山内雅彦経済部次長、工藤嘉高クリーンセンター所長、梅村修司議会事務局長らの歓迎を受け、最初に議長よりコロナ禍での市の現状と行政の抱える課題について説明をいただいた。その後、本題である「ごみ処理と削減の取り組みについて」、下記の6つの質問への回答を受けて相互に質疑応答のかたちで意見交換を行った。</p> <p>① ごみ処理手数料の改定の経緯とその内容について</p> <p>ごみ処理手数料を平成19年1月に有料化したので、今回(来年4月)の値上げに大きな抵抗はない。有料化による不法投棄は増えていない。前回の値上げを期に、可燃ごみは8,000トンから7,400トン、不燃ごみは700トンから500トンに減った。</p> <p>② 瑞浪市一般廃棄物処理基本計画の内容について</p> <p>計画の目標年次を令和16年度とし、基本理念、基本方針と15の施策からなっている。1人1日当たりの家庭系ゴミ排出量や事業系ゴミ排出量の数値目標を掲げ、ゴミの排出抑制としての手数料の適正化、資源化の促進、資源の集団回収の促進などが盛り込まれている。</p> <p>③ 「ごみの分け方・出し方」出前講座の開催状況とその様子について</p> <p>受講する人も多く好評であるが、分別は慣れるまでが難しく、現場での説明が必要だという声もあった。自治会役員が収集場所に出向いて分別を見守った。これからは若年の子どもたちなどにも受講してもらいたい。</p> <p>④ 瑞浪市廃棄物減量等推進審議会設置の目的と内容について</p> <p>一般廃棄物の減量や適正処理に関する事項を審議するために設置し、委員人数は10人で、住民代表4名、知識経験者2名、事業者3名、廃棄物処理業者1名で校正</p>			

されている。他に、瑞浪市環境審議会（12名）がある。

⑤ ごみ処理の現状と収集体制について

市クリーンセンターは24時間体制で、日量50トン（25トン×2基）処理でき、可燃ゴミは、委託業者が週2回、収集車5台・10人で収集している。5軒以上の集団で収集場所を決め、管理は地域の方に依頼している。不燃ゴミや資源ゴミは、月1回、市職員が回収して処理している。

瑞浪市のゴミ処理で特徴的なのは、これまでの集める→分ける→燃やす→埋めるの方式から、集める→分ける⇒溶かす（熔融）⇒使う（スラグをリサイクル）へ転換したことである。

⑥ ごみの出し方講座、マイバッグ使用の推奨、ごみ処理施設の見学会、生ゴミ堆肥化装置等購入補助金などの対策の効果について

効果についてはうまく数値的に検証できないとのことである。生ゴミ堆肥化装置等購入補助金は、コンポスト購入補助も電気式生ゴミ処理機購入補助ともに平成28年度で終了している。

コロナ禍での視察であったが、快く視察を受け入れて下さった瑞浪市に対して感謝したい。ゴミ処理問題は今日の全国的な喫緊の課題で、ゴミ処理有料化の導入には多くの困難があるが、市民には有料化に至る根拠と現状、効果について、丁寧な説明とタイムスケジュールをしっかりと示すことが重要であると感じた。瑞浪市で見ると、ゴミ処理の有料化が不法投棄の懸念もなく、ゴミ排出量の抑制効果につながっていることもわかった。

以上

(様式 3)

調査研修 期 間	令和3年11月11日	参加者 議員名	伊藤 謙一
-------------	------------	------------	-------

調査研究・研修結果及び所見 (参加議員それぞれが記入)

岐阜県 瑞浪市 本市でもゴミ減量化及び有料化に関して近年取り組みが始まっているため先進市である当市を視察に訪れた。当市は平成19年に既にゴミ袋の有料化を行っており、令和4年4月より二度目の値上げを行う。これにより、可燃ゴミは大袋46Lで20枚入りで920円となる。一枚あたりは、46円。また、不燃ゴミも袋により回収しておりこちらは大袋10枚入りで460円と、一枚あたりの値段は可燃ゴミと同様である。このように袋井市に比べるとかなりの市民負担があるが、周辺自治体もゴミの有料化を同じタイミングで進めており、特段市民からの不満は起こってないと伺った。また、ゴミ有料化に伴って、不法投棄が増えたか?と聞いたが、当市では全く増えていないという。理由として、値段が上がるから不法投棄をする人が増えるというよりは、不法投棄をする人はゴミ袋の値段が仮に低くてもするのでは?というモラルの問題ではと回答が返ってきた。又、個人的に注目したのはゴミ回収アプリ、スリーアールが非常に使いやすかったことだ。これは、可燃ゴミ及び不燃ゴミに関して収集カレンダーを市民に周知するだけでなく、行政からのゴミや環境に対しての情報をプッシュ型でお知らせができるようになっていた。本市も今後、3年後に目標を定めてゴミ減量化をしていくなら月単位で市民に減量状況をお知らせすることは必須だと感じました。

(様式3)

調査研修 期 間	令和 3年11月11日 ～ 令和 年 月 日	参加者 議員名	大場 正昭
調査研究・研修結果及び所見 (参加議員それぞれが記入)			
視察研修「岐阜県瑞浪市」			
☆ごみ処理及び削減の取り組みについて			
①ごみ処理手数料の改定の経緯とその内容について			
・平成19年1月に有料化したことで減量化につながっている。大きな山場を越えた気がする。お隣の土岐市もやや遅れて有料化した。			
・特に有料化したことで、不法投棄は増えていない。			
・平成19年の値上げを境に、可燃ごみは8,000トンから7,400トン、不燃ごみは700トンから500トンに減った。			
②瑞浪市一般廃棄物処理基本計画（令和2年3月改定）の内容について			
・計画の目標年次を令和16年度としている。			
・基本の方針として、基本理念、基本方針、15の施策を備えている。			
・数値目標として、1人1日あたりの家庭系ごみ排出量を令和16年度に438グラムとしている。かなり少ない数字である。また、事業系のごみ排出量を、令和16年度に2,939トンとしている。			
・ごみの排出抑制として、ごみ処理手数料の適正化など、資源化の促進として、資源集団回収の促進など、廃棄物の適正処理として、ごみ処理施設の適切な運営などが盛り込まれている。			
③「ごみの分け方・出し方」出前講座の開催状況とその様子について			
・多くの方に受講してもらい、好評である。			
・捨てる方の課題として、分別も慣れるまでむずかしい。現場で説明してほしいとの声もある。			
・収集場所を担当する自治会役員にもやらされている感もあるかもしれない。			
・今後は子どもたち、低い年齢層の方々に受けてもらいたい。			

④瑞浪市廃棄物減量等推進審議会設置の目的と内容について

・当審議会は、住民代表4名、知識経験者2名、事業者3名、廃棄物処理業者1名の、合わせて10名で構成されている。

・ほかにも、瑞浪市環境審議会（12名）を設置している。

⑤ごみ処理の現状と収集体制について

・瑞浪市クリーンセンターは24時間体制で、日量50トン（25トン×2基）処理できる。

・可燃ごみは、委託業者が週2回、5台10人で収集している。

・5軒以上の固まりで収集場所を決め、管理は地域の方々をお願いしている。

・不燃ごみ、資源ごみは、月一回、市職員が回収している。

⑥ごみの出し方講座、マイバック使用の推奨、ごみ処理施設の見学会、生ごみ堆肥化装置等購入補助金などの対策の効果について

・なかなか数値的に検証出来ないのが現状である。

・生ごみ堆肥化装置等購入補助金は平成28年度で終了している。

※この時期たいへん参考となる視察でした。わが市の今後の取り組みに活かしていきたいと思えます。やはり、基本計画を策定する中で、年度ごと進めていくのが望ましいと痛切に感じました。やはり、ごみ処理の有料化をすることも、ごみ排出の抑制につながることがわかりました。

(様 式 3)

調査研修 期 間	令和3年11月11日	参加者 議員名	村松 和幸
-------------	------------	------------	-------

調査研究・研修結果及び所見

ごみ処理及び削減の取り組みについて

当日は、瑞浪市クリーンセンターにて、加藤輔之市議会議長、山内雅彦経済部次長、梅村修司議会事務局長、工藤嘉高クリーンセンター所長に対応していただき、6つの質問の回答を受けて、質疑をさせていただき勉強会を行った。

(1) ごみ処理手数料の改定の経緯とその内容について

ゴミ袋については平成19年に有料化しており、可燃ごみは8,000tから7,400tに削減できたとのこと。これからまた値上げが予定されているが、周りの市町村も同様であり、反発などはないようである。

(2) 瑞浪市一般廃棄物処理基本計画（令和2年3月改定）の内容について

目標年次を令和16年度として「幸せ実感都市みずなみ～共に暮らし共に育ち共に創る～」を基本理念に掲げ、「ごみの排出抑制」「資源化の促進」「廃棄物の適正処理」の3つの基本方針により、15の施策を実施していくとのことである。

(3) 「ごみの分け方・出し方」出前講座の開催状況とその様子について

受講される方も多く、概ね好評であるとのことであった。

(4) 瑞浪市廃棄物減量等推進審議会設置の目的と内容について

住民代表4名、知職経験者2名、事業者3名、廃棄物処理業者1名で構成されており、一般廃棄物の減量や適正処理に関する事項を審議している。

(5) ごみ処理の現状と収集体制について

可燃ごみは50tを24時間体制で処理している。不燃ごみは23種類の分別を行い、月1回、回収しているとのことである。

(6) ごみの出し方講座、マイバッグ使用の推奨、ごみ処理施設の見学会、生ごみ堆肥化装置等購入補助金などの対策効果について

数値ではなかなか証明できないとのことであった。コンポスト等の購入補助金については申請も年々減少してきたことから、現在は行ってはいないとのことで

る。

袋井市においてもごみ減量は喫緊の課題である。来年度のごみ袋有料化が先送りになったこともあり、きめ細やかな削減政策が重要である。ゴミ袋有料化においては市民に対して丁寧な説明が必要であり、ごみ削減の協力をお願いしていくことが大切なのではと考える。

(様式3)

調査研修 期 間	令和3年11月11日(木)	参加者 議員名	安間 亨
調査研究・研修結果及び所見			
(参加議員それぞれが記入)			
<p>岐阜県南東部、焼き物や化石など歴史と文化のまちとして知られる瑞浪市（人口約3万7000人）の「瑞浪市クリーンセンター」を訪問した。今回、我々の訪問は叶わなかったが、瑞浪市において、文部科学省が進める「スーパーエコスクール実証事業」が近年注目を集め、全国からの視察が多いとのこと。瑞浪市の現状等について説明を受けた後、本題である「ごみ処理とごみ削減の取り組みについて」、質疑応答や意見交換をおこなった。</p>			
① ごみ処理手数料の改定の経緯とその内容について			
<p>瑞浪市は平成19年1月にごみ処理手数料を有料化し、来年、令和4年4月よりごみ袋の値上げがおこなわれる。現在、46リットルの大袋20枚入りは740円だが、今回の値上げを機に20枚入りは920円となる。今回の値上げに関して、市民の方々から大きな反発や抵抗はなく、有料化以降不法投棄が増加やマナーの急激な悪化なども見受けられなかった。有料化を契機に、可燃ごみは8,000トンから7,400トン、不燃ごみは700トンから500トンに減少した。</p>			
② 瑞浪市一般廃棄物処理基本計画（令和2年3月改定）の内容について			
<p>計画の目標年次を令和16年度とし、基本理念、基本方針、15の施策を備えている。1人1日当たりの家庭系ごみ排出量や事業系ごみ排出量の数値目標を掲げ、ごみの排出抑制としてのごみ処理手数料の適正化、資源化の促進、資源の集団回収、ごみ処理施設の適切な運営などが盛り込まれている。</p>			
② 「ごみの分け方・出し方」出前講座の開催状況とその様子について			
<p>多くの方に受講してもらい、好評とのこと。しかし、分別は慣れるまでが難しく、現場での説明が必要であること、また、収集場所に向かう自治会役員の方々が仕方なくやらされている、といった市民の声も存在する。今後は、こどもたちの教育を中心に活動</p>			

を展開していきたいとのこと。

④ 瑞浪市廃棄物減量等推進審議会設置の目的と内容について

一般廃棄物の減量や適正処理に関する事項を審議するために審議会が設置され、住民代表4名、知識経験者2名、事業者3名、廃棄物処理業者1名の計10名で構成されている。また、別途、12名で構成された瑞浪市環境審議会が設置されている。

⑤ ゴミ処理の現状と収集体制について

瑞浪市クリーンセンターは24時間体制、一日あたり約50トンの処理が可能で、可燃ゴミは委託業者が週に2回、収集車5台、作業員10人で収集をおこなっている。5軒以上の集団で収集場所を決め、管理を地域の方々をお願いしているとのこと。また、不燃ゴミや資源ゴミは月1回市の職員が回収し処理をおこなっている。瑞浪市のゴミ処理で特徴的な内容として、従来の、「ゴミを集めて、分けて、燃やして、捨てる」の方式から、「ゴミを集め、わけたものを、高温で溶かし、再利用する」という方式へ転換したことが挙げられる。これにより、ゴミをスラグ化し、建設資材や道路路盤材などとして再利用できるため、埋立量の抑制につながった。

⑥ ゴミの出し方講座、マイバッグ使用の推奨、ゴミ処理施設の見学会、生ゴミ堆肥化装置等購入補助金などの対策の効果について

効果については数値的にうまく検証できていないというのが現状。生ゴミ堆肥化装置等購入補助金に関しては、コンポストの購入補助が平成3年度から、電気式生ゴミ処理機の購入補助は平成10年度から開始され、制度の新設当初は交付台数が数多くあったが、年々交付台数は減少し続け、平成28年度をもって補助制度を終了した。

瑞浪市の例でみる限り、ゴミ処理の有料化が不法投棄につながることもなく、ゴミ排出の抑制につながっていることがわかった。わたしたち袋井市はゴミ処理有料化を見送り、まずはゴミ減量に向けた取り組みを進めるということで、今後の取り組みに活かしていきたい。また、コロナ禍にもかかわらず、我々の視察を快く受け入れて下さった瑞浪市の方々には、改めて感謝を申し上げたい。

(様式 4)

物品購入等支出報告書

令和3年11月17日

会派代表者 様

会派名 緑風会



氏名 安間 亨

項 目 (該当項目に○印)	① 調査研究費 2 研修費 3 広報費 4 広聴費 5 要請・陳情活動費 6 会議費 7 資料作成費 8 資料購入費 10 事務所費 (9 人件費は別の任意様式)
金 額	183,700円
支出にかかる内訳 ➤ 品名 ➤ 数量 ➤ 年月日 等	令和3年11月17日 京都府木津川市 テクノファームけいはんな 令和3年11月18日 京都府木津川市 NPO法人夢街道国際交流子ども館 旅費 @36,740 × 5名 = 183,700
購 入 先	
支 出 年 月 日	令和3年11月17日

※裏面に領収書添付

(会派の広報は、発行後議会事務局に1部提出してください。)

(様式2)

確認	会派代表者	経理責任者
		

供覧	議長	副議長	局長	主幹	係長	係
						

調査研究・研修計画書

令和3年10月22日

袋井市議会議長 戸塚 哲夫 様

会派名 緑風会
氏名 近藤 正美

参加予定議員名	近藤正美 伊藤謙一 大場正昭 村松和幸 安間 亨 《計 5名》
期 間	令和3年 11月17日(水)～11月18日(木) 《1泊2日》
調査研究研修先	○ 会派による視察研修 ・テクノファームけいはんな 〒619-0025 京都府木津川市木津川台9-5-5 「人工光型植物工場」視察・研修 ・認定NPO法人・夢街道 国際交流子ども館 〒619-1152 京都府木津川市加茂町里新戸114 「フリースクールへの取り組み」
概 算 費 用	183,700円 (36,740円×5名)

※視察行程表を添付してください。

(様 式 2)

調査研究・研修の目的及び市政との関連性

(調査研究先・研修先ごとにそれぞれ記入)

今回の会派による訪問は、①袋井へ進出する企業と同系列の植物工場と、②京都府教育委員会認定のフリースクールの2カ所を視察・研修するものである。

前者の①は、2017年末、株式会社スプレッドは京都府木津川市に、世界初の日産3万のレタス栽培を自動化した、次世代型植物工場「テクノファームけいはんな」を完成させた。単一のレタス工場としては世界最大級の生産能力を持ち、栽培工程の自動化を実現した画期的な植物工場である。

本市でも同社による企業進出で、世界最大規模となる日産10トンの植物工場「テクノファーム袋井」が、中部電力と日本エスコンらによる合同会社で本年10月に着工され、令和6年1月より生産開始の予定であるので大いに参考になる。

後者の②は、同じ木津川市で、定年退職した元教師夫妻が不登校やひきこもりの子どもたちの居場所づくりにフリースクールを設立し、子どもたちが少しずつ自信を取り戻す手助けをしている。本市においても、同様の子どもたちが学習や友達・家族関係、将来等に不安を抱えて生活しており、施策の参考になるものと期待する。

また、①では、工場進出による住環境の変化、雇用、食の安全性などについて、②では、悩みを抱える子どもたちへの接し方の実態を、担当者と率直な意見交換をすることで相互理解を深めたい。

そして、今回の視察・研修で得た知識やノウハウを、今後の行政の施策や方針の参考に資する提言となるよう努めたい。

静岡県袋井市議会会派「緑風会」研修について

1 期 日

令和3年11月17日（水）～18日（木）（1泊2日）

2 研修先及び研修内容

令和3年11月17日（水）12:30～14:30

テクノファームけいはんな

「人工光型植物工場」視察・研修

令和3年11月18日（木）10:00～11:00

認定NPO法人・夢街道 国際交流子ども館

「フリースクールへの取り組み」

3 参加者

袋井市議会会派「緑風会」所属議員（5名） … 別添名簿のとおり

4 行 程

第1日目・11月17日（水）

J R 袋井駅（8:50 迄に集合）

J R 袋井駅（9:00 発）～ J R 東海道本線（普通）～

J R 浜松駅（9:18 着・9:31 発）～ J R 東海道新幹線（ひかり 503 号）～

J R 京都駅（10:37 着・11:12 発）～近鉄京都線～

近鉄 新祝園駅（11:46 着）

*新祝園駅前からタクシーにて移動。昼食は移動中にとる。

研 修 12:30～14:30

テクノファームけいはんな

「人工光型植物工場」視察・研修

*研修後、タクシーにてホテルへ。

宿 泊 先

けいはんなプラザホテル

（京都府相楽郡精華町光台1丁目7 TEL:0774-95-0101）

第2日目・11月18日(木)

*ホテルからタクシーにて移動

研 修 10:00～11:00

認定NPO法人・夢街道 国際交流子ども館

「フリースクールへの取り組み」

*研修後、タクシーにて木津駅へ。昼食は移動中にとる。

JR 木津駅 (11:31 発) ～ JR奈良線 (快速) ～

JR 京都駅 (12:12 着・12:24 発) ～ JR東海道新幹線 (のぞみ18号) ～

JR 名古屋駅 (12:58 着・13:08 発) ～ JR東海道新幹線 (こだま724号) ～

JR 掛川駅 (14:08 着・14:18 発) ～ JR東海道本線 (普通) ～

JR 袋井駅 (14:27 着)

静岡県袋井市議会会派「緑風会」研修名簿

NO	会派	氏名	ふりがな	備考
1	緑風会	近藤 正美	こんどう まさみ	会派長
2	〃	大場 正昭	おおば まさあき	
3	〃	伊藤 謙一	いとう けんいち	副議長
4	〃	村松 和幸	むらまつ かずゆき	
5	〃	安間 亨	あんま とおる	

路程・運賃明細書

月・日	区 間	路程(km)	運 賃	新幹線 特急料金	車 賃	日 当	宿 泊 料 (1泊2食付)	参加費	計
11月17日	袋井～浜松(19.0)	275.5	4,840			1,500			6,340
	浜松～京都(256.5)			3,930					3,930
	京都～新祝園(近鉄)	26.7	500						500
	テクノファームけいはんな(視察)								
	(木津川市泊)						14,800		14,800
11月18日	祝園～加茂	11.1	240			1,500			1,740
	NPO法人 夢街道国際交流交流 子ども館(視察)								
	加茂～京都(40.7)	316.2	5,500						5,500
	京都～浜松(256.5)			3,930					3,930
	浜松～袋井(19.0)								
	計	629.5	11,080	7,860	0	3,000	14,800	0	36,740

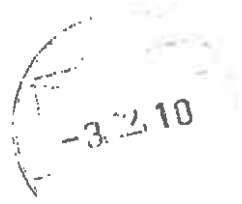
R3.11.12



(様式3)

確認	会派代表者	経理責任者	供	議長	副議長	局長	主幹	係長	係
				覧					

調査研究・研修報告書



平成3年11月22日

袋井市議会議長 戸塚哲夫 様

会派名 緑風会
氏名 近藤 正美

参加議員名	近藤正美 伊藤謙一 大場正昭 村松和幸 安間 亨 《計 5名》
期 間	平成3年11月17日(水)～11月18日(木) 《1泊2日》
調査研究研修先	・「テクノファームけいはんな」 〒619-0025 京都府木津川市木津川台9-5-5 ・認定NPO法人「夢街道 国際交流子ども館」 〒619-1152 京都府木津川市加茂町里新戸114
考察特記事項	なし

(様式3)

調査研修 期 間	令和3年11月17日～ 11月18日（1泊2日）	参加者 議員名	近藤 正美
-------------	-----------------------------	------------	-------

調査研究・研修結果及び所見

・11月17日（水）午後「テクノファームけいはんな」（京都府木津川市）
今回視察した株式会社スプレッドは、袋井への進出が決まった次世代型植物工場を手がける会社である。2007年、京都府亀岡市で「亀岡プラント」を設立し、当時世界最大級の完全人工光型植物工場を造った。その後、京都府木津川市に「テクノファームけいはんな」、千葉県成田に「テクノファーム成田」を設立し、そして次は「テクノファーム袋井」と続く事業を展開している

当日は、事業開発部のGM久保山敏之氏、中部電力の柳川博康事業創造部長が出席され、会社及び事業の説明をしていただいた。また、事前にお問い合わせしていた質問事項にも丁寧に答えていただいた。

- ① 木津川市を選んだ理由は、西の学研都市で、周りに多くの有数の企業があり、立地条件がよかったとのこと。
- ② 現在の収益状況は、自社工場の売り上げは15～17億円、テクノファーム成田は約20億円。テクノファーム袋井は約50億円を見込んでいるとのこと。
- ③ 周辺の住環境への変化は、女性の職場としてコンビニなどのパートより作業内容が簡単で覚えることが少なく、近所の人に知られないなどの利点もあるとのこと。
- ④ 生産可能な他の野菜は、レタス栽培が軌道に乗れば、ほうれん草、小松菜などの葉物やいちごなどの果物を考えているとのこと。
- ⑤ 害虫駆除や殺菌消毒は必要かの問いに、全くその心配はなく、衛生的に管理されているとのこと。
- ⑥ 栄養価や通常栽培との違いは、栄養価は種に起因していると思われるが、通常栽培で60日要する出荷が、33日で可能であるとのこと。

⑦ 安定的な栽培や生産に向けての災害対策は、風水害、地震、火災、停電などの備え、警備保障会社セコムに加入する。また、袋井では近隣の工場との非常時合同訓練も考えているとのこと。

⑧ 視察の受け入れは、現在海外からも含め、年間400件くらいある。ただ、工場見学は人数や見学場所が限られていて申し訳ないとのこと。

※今回の視察の感想は、グローバル展開を見据えた未来指向型の開発事業で、生産、安全管理、物流、販売など従来のやり方と大きく違い、発想の転換や意識の変革が必要であると感じた。例えば、本来の光合成でないかたちで野菜が生産されるのも、時代の変化かと変に納得させられた感がする。

ただ、人的負荷が大きい栽培工程（育苗～収穫）を自動化、人的経費の大きな削減、LED照明、湿度、光量などの環境制御などの技術革新には目を見張るものがあり、いよいよICT、IoT、AI、ビッグデータなどを駆使した、持続可能な農業の域へ入ったと確信した。袋井工場も大いに期待ができる。

・11月18日（木）午前 「認定NPO法人・夢街道 国際交流子ども館」
（京都府木津川市）

今回訪問した国際交流子ども館は、京都府教育委員会認定のフリースクールで、元教員の比嘉昇・冷代ご夫妻が、2002年に幼小中の教育現場での経験を基に、退職後に設立したNPO法人のフリースクールである。現在、不登校の子どもたちと喜怒哀楽をともにする日々を送っている。

以下がその内容であるが、多くの質問の答えの中に、ご夫妻はじめスタッフの皆さんの熱意がひしひしと伝わってきた。

比嘉理事長は、校長として在職していた、ある中学校での出来事をきっかけとして、不登校やひきこもりなどで、学校に行きたくても行けない子どもたちのために居場所づくりを考えた。ただ、子ども館の設立には資金、土地、関係者の理解など多くの困難があったが、それらに勝る子どもたちへの思いや熱意が教育委員会、保護者らを動かし、開校に至った。

- ① こども館は平日9時～16時までの運営で、小（3）、中（12名）、高（5名）計20名（男子12名、女子8名）が通学している。ほとんどが初期段階のひきこもりの児童生徒である。
- ② 設立当初から資金面で苦勞し、ご夫妻の退職金と、息子さん名義の借り入れで賄った。京都府からは年間50万円の補助があり、子どもさんの月謝は月4万円、週1回通う子どもさんは月1万円の負担である。また篤志家からの寄付もある。
- ③ 学校が休校する中、コロナ禍でも閉鎖せず運営し、近隣の市町から通学を希望する子どもたちも増えている。高校に進学する子もいて、学習意欲も向上し、学校の進路課の先生や保護者からも喜ばれている。
- ④ 普段の出席に明日やその様子を必ず該当の学校に報告している。
- ⑤ 京都府教育委員会や地元木津川市とも、農業体験、介護・社会福祉の面で協力、連携し、補助や支援をお願いしている。
- ⑥ 子どもたちは一日を、ゆったりとした雰囲気の中で、決して強制されず、自由に過ごしている。また、農業体験、調理、趣味なども自発的に行っている。

※感想として、スタッフの方たちは、子どもたちに対して「信じる 待つ 愛する」ことを大切にし、社会へ出るために彼らが少しずつ自信を取り戻す手助けを、日々地道に一生懸命していることがよくわかった。

ここでの教育実践は、多くのメディアや新聞社、マスコミからも注目され、各界で多く報道されている。今日の子どもたちを取り巻く生活・学習・社会環境は、決して恵まれたものではなく、窮屈であるが故に、一人ひとりのしっかりとした居場所づくりが必要であると実感した。

社会の格差が増大するにつれ、家族や家庭での経済や貧富の格差も大きくなり、それが子どもたちの学力や技能、意識の格差につながっている。社会や大人の反省に立って、今こそ一人ひとりと向き合う教育の大切さを教えてくれた子ども館であった。「一人ひとりを大切にする教育とは何か」——そんな命題に気づかせてくれた、大変有意義な視察であった。

(様式 3)

調査研修 期 間	令和3年11月17日 ~ 令和3年11月18日	参加者 議員名	伊藤謙一
-------------	----------------------------	------------	------

調査研究・研修結果及び所見 (参加議員それぞれが記入)

京都府 株式会社スプレッド 本市の袋井IC前に中部電力と合資にて世界最大の野菜工場を設立する当社を視察してきました内容は以下の通りです。企業の詳細はこちらのホームページをご確認ください。<https://technofarm.com/> 株式会社スプレッドが運営する野菜工場のテクノファームは、屋内での完全システム化された野菜工場です。オートメーションにより発芽から30日で収穫ができる。また、土を使用せず虫や菌もない環境で野菜を作るため、歩留まりや衛生的にも質の高い野菜を生産できている。現在はリーフレタスが中心だが、青梗菜や根菜等も作ることは可能だと伺いました。見学した施設は日量20000株でしたが、袋井市にできる工場は日量50000株で、世界最大級の野菜工場とのことです。全天候型で、気候に左右されずに食料が確保できる点と、地元にて雇用特に高齢者雇用に結びつくのではという事と、海外からの企業や政府視察の実績がある事から、袋井にとってこの企業誘致は大変有益なものであると感じました。しかしながら、地元農家との共存は必須だと感じており、株式会社スプレッドが起点となり地元農業生産法人にもICTや工場を使った農業を広めていくような取り組みが必要だと感じました。

NPO法人夢街道国際子ども館 京都府木津川市にて小学4年生から18歳までのフリースクールを完全民間で経営している当団体を視察してきました。

<http://www.yumekaido-kodomokan.org/about.html> 当施設は、周辺の学校に様々な理由で行けない子供達の受け皿として、学校に行かなくても当施設に通えば出席扱いになるフリースクール事業を、団体の持ち物である二階建ての一軒家にて行っている。2001年よりNPO法人を取得して活動をしており、現在スタッフは10名程度、子どもたちは30名ほどが登録をしている。開館は月曜から金曜日まで、利用料は月の会費制 毎日通う場合には40000円、又別途で入会金が50000円掛かる。子供達は京都府内から幅広くきており、当施設が非常に温かみを持って経営されていることがわかった。静岡県内では、フリースクールは浜松や静岡等の都市圏のみであり、本市のような規模感でも民間の力を借りて、今後の子どもたちの受け皿として、必要性を強く感じました。

(様式3)

調査研修 期 間	令和 3年11月17日	参加者 議員名	犬場 正昭
	令和 3年11月18日		

調査研究・研修結果及び所見

☆視察研修「京都府 テクノファームけいはんな」(京都府木津川市)

①「テクノファームけいはんな」の設立の経緯と目的などについて

- ・植物工場事業として「亀岡プラント」の設立以降、さらに発展させたいと考えた。
- ・海外からの視察もあり、アメリカラスベガスでもやってほしいと言われている。

②木津川市を選んだ理由、決め手は何か。

・京都府庁の企業立地課との相談・協議の中で、学研都市である木津川市に惹かれた。ただ、大阪ガスの持ち物であり、なかなか土地代が高かった。

③「テクノファームけいはんな」の現在の収益状況はどうか。

・自社工場での売り上げは15～17億円である。テクノファーム成田は約2億円、テクノファーム袋井は約50億円を考えている。

④周辺の住環境に変化があったか。

・「亀岡プラント」は農地転用に関して、理解度が増した。農業をしているお宅の女性がパートとして働きに来てくれている。その理由として、コンビニなどのパートよりも、作業内容が簡単で覚えることが少ない。近所の方に顔がわかりにくいなどの理由があるようである。

⑤レタスのほかに、他の作物として生産可能な野菜はどうか。

・レタス栽培が順調になれば、ほうれん草、小松菜などの葉物や、イチゴなどの果物を考えている。

⑥通常栽培では、害虫駆除や殺菌消毒が必要であるが、その点はどうか。

・全くその心配はない。衛生的に管理されている。そのようなことから、野菜の古来種、伝統野菜も栽培していきたいとも考えている。

⑦栄養価について、通常栽培との違いは何か。

・種に起因していると思われる。袋井工場では一株220gで、出荷まで37日間で出来る。

⑧安定的な栽培や生産に向け、災害対策はどうか。

・火災、地震、風水害、停電などに備え、警備保障会社セコムに加入したい。また、袋井では、近隣の工場さんとも合同で非常時の訓練も考えている。

⑨規模対効果、費用対効果をどのように考えているか。

・1万株でも300株でも採算が合うようにしたい。キノコの全国的な会社、「北斗」や、「雪国まいたけ」（年商三桁億円）に追いつきたいと思っている。

⑩視察の受け入れなどはどうか。

・現在は海外からも来ている、年間400件くらいある。ロシアの官僚、ドバイの有力者なども。袋井工場としては、今後地元袋井市はもとより、県内外から来ていただきたい。ただ工場見学は人数や見学場所が限られてしまう、申し訳なく思っている。

⑪地元自治体との連携はどうか。

・今後とも協働、連絡を密にしていきたい。「テクノファームけいはんな」では、地元木津川市や京都府とも連携を図っている。

※栽培技術面では、人工光を用いた栽培について、日本はもとより、世界から注目されていることがわかりました。小学校の教科書にも掲載されていて、持続可能な社会の実現のため、取り組んでいることも知りました。また、365日の稼働、日中のパートさんの常時60名の雇用など、なかなか難しい課題もあろうかと思われまます。スマート農業を推し進めていく中ではたいへん有効かと思われ、参考となる視察となりました。

☆視察研修「NPO法人夢街道国際交流子ども館」（京都府木津川市）

①国際交流子ども館」設立の経緯と目的は何か。

・小中学校教諭、幼稚園教諭や中国北京での日本人学校などの教職経験を経て、どうしても実現したかった。不登校の児童・生徒のため、縁あって、気兼ねせず通えるフリースクールを開校した。子ども館として、平日9時から16時までの運営となっている。

・現在小（3名）中（12名）高（5名）合わせて20名が通っている、男子12名、女子8名という内訳である。初期段階のひきこもりの児童生徒がほとんどである。

・井村雅代氏（元日本代表シンクロナイズドコーチ）や伊藤忠商事の元役員などの篤志家の方々に支えられている。たいへんありがたいことである。

②「夢街道」や「国際」位置付けた理由は何か。

・夢街道は好きな言葉、グローバル化が進む中、国際化も必要になってきていた。

③子ども館を運営していく中で、課題や困っていることは何か。

・設立当初から、資金面ではたいへんであった。貸し付けをしてくれる銀行は限られ、三重県内の銀行から退職金を元手に借り入れた。それでも足りなく、ご夫妻の息子さん名義でも2千万円ほど借用した。

・京都府教育委員会から年間で50万円の補助しかもらえてない。

・先ほど述べた篤志家からの寄付、常時通っている子どもさんは月謝として4万円、週に一回程度通う子どもさんは月1万円をもらっている。

④今後の利用者の見込みや取り組みについてはどうか。

・文部科学省の通達、教育確保法に基づいて、運営している。教育の機会均等の観点から、命がけでやってきたとのことであった。

・コロナ禍であっても（学校が一斉休校となっても）、通いたい子どもたちが多かったので、閉鎖せず運営してきた。

・現在も、いろいろな理由で近隣の市町からも通いたいという子どもが増えている。

⑤子どもたちの卒業後の進路はどうか。

・今年度もN高に進学する子もいる。だんだんと意欲が向上していて、学校の進路相談の先生や保護者からも喜ばれている。

・普段の出席日数やその様子を必ず該当の学校へ報告している。

⑥京都府教育委員会や地元木津川市との連携はどうか。

・農業体験や介護・社会福祉などの面で、協力をしていて、補助も受けている。

・近年では、貧困家庭の子どもも増え、福祉面での支援をお願いしている。

・木津川市のケースワーカーや学校の先生などとの、横のつながりがとても大事なので、切れ目のない支援に最大限努めている。

⑦子どもたちの日課、一日の過ごし方のどうか。

・ゆったりとした雰囲気の中で、決して強制はせずに自由に過ごさせている。

・野菜や果物を作る農業体験や、調理なども行っている。

※子どもたちの居場所づくりが必要であり、たいへん立派な活動をされていることがわかりました。自然に囲まれた立地の中で、通っている子どもの姿を見て、感動しました。元気に過ごしている子ども、学習意欲が湧いてきたなどの、実際の現場でのたいへんうれしい話しを聞くことが出来ました。今後の活動に活かしていきたいと思えます。

(様式3)

調査研修 期 間	令和3年11月17日 ～ 令和3年11月18日	参加者 議員名	村松 和幸
-------------	-------------------------------	------------	-------

調査研究・研修結果及び所見

令和3年11月17日(水)「テクノファームけいはんな」視察

当日は、株式会社アースサイド TF事業開発本部 事業開発部 久保山徹之ゼネラルマネージャー、中部電力株式会社 事業創造本部 柳川博康部長に対応していただき、植物工場の視察、現工場の稼働状況や、これからの展望を説明いただいた後、質疑応答をさせていただいた。

- ① 設立の経緯や木津川市を選んだ理由、決め手は何か
西の学研都市ということと、企業集積地である点。
- ② 現在の収益状況はどうであるか、また、「けいはんな」と「袋井」の違いは
現在の売り上げは、15～17億円。袋井工場が稼働で、50億円を予定している。大まかな違いについては、現在は一袋100グラムでの出荷であるが、袋井工場で生産したものについては、一袋200グラムでの販売を予定している。
- ③ 周辺の住環境に変化はあったか(雇用、食の意識、流通など)
パート作業について、従来の農業と違って経験則が不必要で、単純作業が多いことから、労働環境の視点から、大変評価されているとのこと。
- ④ 今後の事業展開、発展の可能性はどうか。また、レタスの他に生産可能な品種は。
ほうれん草、いちご、小松菜、ベビーリーフ、しいたけ等、様々な品種がある。また、重量200グラム以上の栽培技術の開発。
- ⑤ 通常栽培での害虫・殺菌消毒を、この工場ではどのような対策をしているのか
食品工場基準以上の高レベルな対策をしている。(空間殺菌、エアシャワー等)
- ⑥ 栄養価や栽培期間は通常栽培のものとは違いはあるか
栄養価は種に起因しているので変わりはない。栽培期間は220グラムで37日間

⑦ 安定的な栽培や生産に向け、どのような災害対策を講じているか

セキュリティーについてはセコム、停電には特高設備で対応しており、高度な耐震設計であるとのこと。また、袋井工場においては、地域連携で防災訓練などを行い、理解を得られればと考えている。

小学校の教科書に新しい形態の農業であると掲載されていることもあり、農業の担い手不足・異常気象・安定供給や安定価格・安全安心の食意識・健康志向の増加・環境への配慮等、様々な可能性があり、大変注目されている農業形態であると感じた。袋井工場においても、雇用の創出や子どもたちの社会科見学など、様々なメリットがあるのではないかと考える。

令和3年11月18日（木）「NPO法人 夢街道国際交流子ども館」視察

当日は、京都府教育委員会認定 フリースクール 夢街道国際交流子ども館にて、比嘉昇理事長、比嘉治代館長、スタッフの以呂免幸子さんに対応していただき、これまでの経緯や現状を説明いただいた後、質疑応答をさせていただき、館内を案内していただいた。

① 夢街道国際交流子ども館設立の経緯と目的は

理事長、館長の経緯や経験から不登校の子どもたちのためにフリースクールを立ち上げた。2001年にフリースクール、2009年に認定フリースクール、2015年に認定NPO法人になったとのこと。

② グローバル化が進む中、「国際」と位置づけた理由はなにか

北京で日本語教師をされていた経験があり、これからの時代はグローバル化が重要であるとの考えから「国際」と名付けたとのことである。

③ 子ども館を展開していく中での、現在の課題は何か

切れ目のない支援ができるように工夫している。

④ 子どもたちの卒業後の進路先はどうか

具体的な進路先などは言えないが、親と学校としっかり連携して、子どもの希望する

進路へのサポート体制を取っている。

⑤ 京都府教育委員会や木津川市との連携はどのように取っているか

京都府教育委員会からは年に50万円の補助金をもらっている。直接、出席日数などに結びついてくるために、両者とは綿密に連絡を取り合っている。

⑥ トラブルや非社会的な行動など、困難な問題への対処の仕方は

基本的に子どもたちの意思を最優先させている。ただ、怪我や事故が無いように細心の注意を払っている。

⑦ 子どもたちの人数、男女・年齢構成はどうか

小学4年生から受け入れており、小学生3人、中学生12人、高校生5人である。その中で、男子は12人、女子は8人とのこと。

子どもたちの魂を育てることを目的に、初期段階の引きこもりの子どもを対象に受け入れている。5名のスタッフ（ボランティアを除いた）にて、「人の心と体を傷つけない」・「子どもの行動を待つ」ことを最優先させて運営されている。袋井市においても不登校等の子どもに対して同様の対応を取るときには、何が子どもたちに必要であるのか、信念と責任をしっかりとさせながら、進めていくことが重要であると考えている。

(様式3)

調査研修 期 間	令和3年11月17日(水) ～ 令和3年11月18日(木)	参加者 議員名	安間 亨
-------------	-------------------------------------	------------	------

調査研究・研修結果及び所見

1日目に、ロボティクスやIoT、進化した設備技術を駆使し、レタスを安定的に生産する世界最大規模の植物工場である「テクノファームけいはんな(京都府木津川市)」の視察をおこなった。そして、2日目に、何らかの理由で学校に行くことができない・行かないという子どもたちに、小学校・中学校・高校の代わりに過ごす場所、また、学びの場を提供するフリースクール、そのひとつである「NPO法人夢街道国際交流子ども館(京都府木津川市)」を訪問し、意見交換等をおこなった。

1. 「テクノファームけいはんな」

生産事業(植物工場)を手掛けるスプレッド社(アースサイドグループ)の売上は現在約15億円。「テクノファームけいはんな」では1日3トンのレタスが生産されるが、1日10トンのレタスが生産可能な完全人工光型の自動化植物工場「テクノファーム袋井」が本市で建設される。「テクノファームけいはんな」竣工当初から国内外問わず視察が多く、海外からの問い合わせ(視察以外を含む)だけでも、年間400件近くあるとのこと。

テクノファーム系列の植物工場(京都府亀岡市、千葉県成田市を含む)においては、レタスの生産がメインであるが、技術的には、ほうれんそう、小松菜などの葉物野菜をはじめ、いちご、しいたけ、メロン、お米といった品目も生産が可能である。レタス栽培が順調に進めば、今後グローバル視点での新商品を開発していきたいとのこと。

栽培期間中は農薬を使用しておらず、作物自体も衛生的かつ栄養価も高い。また、栽培に必要な水量も露地栽培の約100分の1であるため少ない水資源で生産が可能。なお、災害対策等にも余念はないが、「テクノファーム袋井」が竣工し、生産が開始されれば、同一敷地内の事業者と合同で防災訓練の実施も検討している。

農業の担い手不足、異常気象、安定供給・安定価格の維持といった露地栽培農業における諸問題を解決し、安全安心の職意識、健康志向の増加、環境への配慮といった消費者ニーズの変化に対応する1つの手段として、人工光型植物工場に期待される役割は非常に大きいと感じる。「テクノファーム袋井」での生産開始に向け、正社員10~15名、パート60名（登録200名）の雇用が見込まれることも好材料であるが、既存の農家との連携については課題が残る印象を受けた。

いずれにせよ、大型レタスの生産規格で業界水準を大幅に上回る生産効率性を売りにした世界最大規模の植物工場が本市に完成した暁には、「テクノファームけいはんな」同様、もしくはそれ以上、国内外からの視察依頼が寄せられるのではないかと予想される。袋井市のプレゼンスを高める絶好の機会であるため、市長を中心に全庁体制で各種取り組みをおこなっていく必要があるのではなかろうか。

2. 「NPO 法人夢街道国際交流子ども館」

現在、小学生3名、中学生12名、高校生5名の計20名（男12名、女8名）の子どもたちを受け入れ、「普通教育機会確保法」に基づき、常勤スタッフ5名で運営している。子どもたちの大半にひきこもりの初期症状がみられるが、基本的には“待つ”というスタンスを大切にしている。

具体的には、①学校を休むことは時には必要＝多様な学びを認める ②不登校は問題行動ではない ③学校復帰ではなく社会的自立が目標 ④どこで学ぶかではなく何をどのように学ぶが大切 ⑤公民連携や子供や親への必要な情報提供 が「普通教育機会確保法」の大きなポイントである。

不登校支援の在り方が大きく変わり、2019年の「文科省通知」でその内容が示され、「学校復帰」が記された通知はすべて廃止となった。こうした不登校支援の流れが周知、および、実践されているところがある一方、これまでと変わらない“学校復帰第一”の対応も依然として残っている。

現地の子どもたちと直接触れ合うなかで、子どもたちの素直で純粋な姿に胸を打たれた。また、わたしたち袋井市の教育の現場を改めて見つめなおすよい機会となった。今後の自分自身の活動に活かし、研鑽を深めていきたい。

(様式 4)

物品購入等支出報告書

令和4年2月4日

会派代表者 様

会派名 緑風会

氏名 安間 亨

項 目 (該当項目に○印)	1 調査研究費 2 研修費 ③ 広報費 4 広聴費 5 要請・陳情活動費 6 会議費 7 資料作成費 8 資料購入費 10 事務所費 (9 人件費は別の任意様式)
金 額	250,000円
支出にかかる内訳	令和4年1月14日 会派広報 ▶ 品名 印刷 20,000枚 (① 9.788 × 20,000 = 187,760円) ▶ 数量 折込 19,450枚 (② 3.2 × 19,450 = 62,240円) ▶ 年月日 等
購 入 先	有限会社エム・エス・シー
支 出 年 月 日	令和4年2月4日

※裏面に領収書添付

(会派の広報は、発行後議会事務局に1部提出してください。)

領収証

No.

岩手市議会 会派 緑風会 様

令和4年 2月 4日

金額	¥	2	5	0	0	0	0
----	---	---	---	---	---	---	---

但 飲食料品等(軽減税率対象) 会派広報印刷代 20,000枚
 折込代 19,450枚
 上記正に領収いたしました

8%(税込・税抜)金額 消費税額等

10%(税込・税抜)金額 消費税額等

現金・カード・() 丹沢行

HiSAGO #778



企画・デザイン・写真撮影・印刷までをクリエイト

有限会社
デザインオフィス

エム・エフ・シー

〒437-0061 静岡県袋井市大塚1-1-74
 TEL (0538) 42-3304
 FAX (0538) 42-3302



緑風会は、行政と対等な関係で、新しい袋井市の建設を目指す保守系会派です。

緑風会は、市民の立場に立ち、切磋琢磨する政策集団です。

緑風会は、議員一人ひとりの意見を尊重し、建設的な活動を行う会派です。

第1号
2022.1



2022年 今年もがんばります!!

大場市長への令和4年度予算に係る提言・要望への対応状況

「緑風会」は大場市長へ、令和4年度の予算編成に向けた政策を提案し、回答をいただきました。私たちは、袋井市の緊急課題や地域課題の解決、市の活性化に向け努力してまいります。

タクシー利用助成事業

新型コロナウイルスワクチンの接種を受ける際、接種場所への移動にタクシーを利用する方に運賃の一部(上限600円)を助成します

対象者

- 袋井市内にお住まいで次のいずれかに該当する方
- 65歳以上で接種会場までの移動手段が無い方
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
- 障害文・要介護認定を受けている方

ワクチン接種時の
タクシー利用助成事業チラシ

1 コロナ禍で疲弊している社会全体を、活性化させる予算編成を

新型コロナウイルス感染症に対する3回目のワクチン接種を円滑に実施するとともに、ウイルスとの共存を前提とした経済活動や日常生活におけ、飲食や観光分野のほか、文化芸術活動などの再開、充実などに向け取り組んでいく。

GIGA スクール構想の実現へ

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な学びの場を一人ひとりが活用でき、子供たち一人一人が生涯学習の場となるよう、資力・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ

文部科学省HPより

2 ICT教育導入による問題点や改善点にスピード感のある対応を

学習用タブレットに関して、来年度は、引き続き授業や家庭学習での効果的な活用を検証していくとともに、新たに児童生徒や保護者の情報モラルやリテラシーを育成するための取組を進める。併せて、国のセキュリティポリシーへの対応や児童生徒の個人情報保護のため、教育情報セキュリティの強化にも取り組む。

ICT推進と共に、子供たちの視力低下防止にも目を向ける

3 ICT教育の光と影の部分の分析と手当を

タブレットの持ち帰りも進めている中、健康上の配慮事項や活用上の留意点について、リーフレットなどにより全保護者に伝えている。また、未来の教育実証事業を通じて、家庭学習でのタブレット利用や学習アプリ活用の効果について検証を図り、次年度のICT活用につなげていく。

小笠山山麓開発事業

4 企業誘致の推進を図り、新たな展開を

新たな産業用地の創出に向けて、令和3年度の企業立地基礎調査で洗い出した適地について、造成等の概略設計や概算事業費の算出など、開発の実現性を整理する開発可能性調査に取り組む。

最大50万円補助金を交付します!

昨年行われた、リフォーム助成事業

5 ウィズコロナの経済対策として、例えば、住宅リフォーム補助金など定住や移住を目的に住環境への補助を要望する

住宅リフォーム助成事業については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う経済対策を主眼として、国・県の交付金を活用して実施した事業であるため、現在実施は予定していませんが、今後の感染症の状況や経済状況、国や県の動向を見据えた中で適切に対応していく。

ふくろい産業イノベーションセンターHP

6 ふくろい産業イノベーションセンターの最大限の活用で中小企業に活力を

令和4年度は、本年度の取組に加え、繋がる点を重視した「企業と大学リソースマッチング」、「同業種間の連携強化・課題共有」、「異業種交流や雑談の場の企画・運営」に取り組んでいく。

袋井駅南側のモニュメント

7 袋井の代表的な農産品である米、茶、メロンのより積極的な行政による宣伝を

袋井市農業振興会や各作物別の振興協議会において、市と農業団体、生産者が一体となった販売促進活動を、積極的に支援していく。

袋井市みちプログラム

8 朝の通学、通勤時の交通安全・渋滞対策として堀越上東名北交差点の右折レーン新設工事と関連する歩道工事を

袋井市みちプログラムの評価結果などを基に整備順位を定め実施している状況であり、今後、上久能山科上線につきましても交通量や交通状況などを踏まえ整備を検討してまいります。

市内消防団の分団車庫

9 分団小屋(袋井第4)の建て替え・移転や団員の報酬増額など消防団のあり方検討を

分団小屋(袋井第4)の建て替え・移転については、整備計画に基づき、計画的に検討していきたい。報酬について、令和4年度当初予算において、火災出動報酬とその他活動報酬の新設を要求していることに加え、消防団員個人に報酬を振り込むことを予定している。処遇改善策に加え、団員確保に資する各種取り組みを検討することにより、消防団員確保につなげていく。

国土交通省HPより

10 空き家・空き地対策と並行して、所有者不明土地の実態把握を

所有者不明土地の取り扱いに関しては、「所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法」の施行後、法務局等でその取扱いについて協議が進められており、今後、その動向を見ながら運用等についても研究を進めていく。

緑風会の活動

まちづくりには、施政や事業の現状・まちの立ち位置を知ることが不可欠です。私たちは行政視察や研修会参加によって、視野を広げるとともに政策立案能力の向上に努めています。また、会派代表質問や一般質問、委員会質疑で提案しています。

質問

私たちが昨年の各定例会で行った代表質問・一般質問のうち、議会だよりに報告されていない幾つかをご紹介します。

代表質問

●大規模災害時における、市指定避難所63ヶ所への現在の職員配置計画は？

■市職員約500人を市災害対策本部編成表により、本部約200人、支部員約300人と割り振り、そのうち市指定避難所に最大で260人程度配置している。1避難所あたり3~4人となり、自主防災隊、自治会などの支援も必要である。

●新型コロナウイルス感染症対策に関して、マスクや消毒液等の備品、抗原検査キットの所持数はどうか？

■2021年11月現在、不織布のマスクは約49万枚、消毒液は約7,500Lを備蓄している。抗原検査キットは2,500個を購入し、市内公共施設や教育施設に配布し、市全体には約1,800個を備蓄するなどしている。

●コロナ禍において、月見の里やメロープラザの利用者数と今後の事業展開はどうか。

■令和2年度は、令和元年度に比べて利用者数が、両施設ともに半以下となり、コロナの影響を大きく受けた。今後、関係機関と協議をし、市民ニーズに沿った事業の運営に取り組んでいく。

一般質問

●ごみ処理の有料化に向け、今後の取り組みの考えは？

■袋井市として2030年に30%のごみの削減を目指す。この目標を達成できない場合やさらに地球温暖化が深刻化した場合にはごみ処理の有料化を再度お願いしていきたい。

●市民説明会では、袋を有料化した収入を使い、様々なごみの減量化を行うとしていたが、今後の減量化策への必要な経費の財源をどう考えるか。

■説明会では、ごみ処理に関する応分の負担を市民にお願いするよう説明させて頂いた。しかしながら、今回の見直しを行うことで雑紙回収などに今後取り組む経費は、一般会計で賄うことを考えている。

●クラウンメロン支所と浜松支所が合併したことにより、浜松市でもクラウンブランドのメロンが生産されることになったが、県西部の中心で発信力のある浜松市と連携して販売促進や宣伝活動ができないか。

■本市が浜松市と連携した取り組みとして、浜松市内において、品評会や消費宣伝イベントを開催したほか、ドバイなどに向けた輸出事業においても両市連携の下、現地でのPR活動を行ってきた。今後も、浜松市との連携を活かし、クラウンメロンの更なる振興につなげていく。

●袋井市北地区で見られる中学校区が分かれる特殊なケースを解決していくために、各中学校のキャパシティや人数バランスなどを段階的に見直していくことはできるか。

■学区について、地域活動が小学校区単位で行われている現状からも同じ中学校に進学することのメリットは大きく、また、教育面においても同じ中学校に進学することが望ましいと考えている。しかし、現在の学区は中学校の地理的条件、地元の方々の意向、また中学校の受け入れ人数など、長期的に解決すべき課題であると考えている。

●水素ステーション整備に対する、本市の見解は。

■一般的である定置式のステーション整備には、国の補助金を活用した場合でも事業者負担は数億円となることから、まずはFCV（燃料電池自動車）の普及状況等を注視していきたい。

●学校教育の現場において、性の多様性について、どのような取り組みがなされているか。

■性別の固定概念にとらわれることなく、児童生徒の係活動や給食当番などの割当てなどをおこなっているほか、LGBTなど性の多様性について学習する機会を設けている。また、必要に応じてスクールカウンセラーを活用するなど、相談しやすい体制を整えていく。

袋井市議会一般質問は
ネットでもご覧いただけます。
お手持ちのスマホより
下記のQRコードをお読みください。



視察

私たちは政務活動費を使用し、行政視察や研修会に出かけました。その概要をご紹介します。

ごみ処理と削減の取り組みに関して

(岐阜県瑞浪市)

瑞浪市は、平成19年にごみ処理手数料の有料化を行った。又令和4年4月には再度値上げを予定しており、可燃ごみ46リットルサイズ袋で一枚あたり46円を予定している。平成19年の値上げ時には、可燃ごみが約8,000トンから約7,400トンに、不燃ごみは約700トンから500トンに減り、不法投棄も殆どなかったとの事であった。本市も、一枚あたり39円のごみ袋の料金改定は見送ったが、引き続き先進事例を注視し、環境に配慮した行政運営につなげて参りたい。

人工光型植物工場

テクノファームけいはんな (京都府木津川市)

令和6年に本市のインター前にて開業する、株式会社スプレッドの運営する大規模野菜工場を視察した。レタスの育苗から収穫までの行程を全て自動化し、日量で3トンのレタスを収穫している。本市に建設予定の工場は、日量10トンのレタスを収穫予定であり、地元消費も見込まれるが、殆どは都市圏で販売される見込みである。当工場は中東などの国からも視察が絶えないようで、官民連携のもと、新しい市の魅力にして参りたい。



左記QRコードは
企業動画へと飛びます。
野菜工場の詳細は
こちらの動画から。

緑風会のメンバー



会派長
建設経済委員会委員長
近藤 正美 (浅羽)



民生文教委員会
副委員長
大場 正昭 (川会)



副議長
民生文教委員会委員
伊藤 謙一 (月見町)



建設経済委員会委員
村松 和幸 (堀越)



総務委員会委員
安間 亨 (久能)

利息決算のお知らせ

毎度格別のお引立てにあずかりありがとうございます。
今期の利息計算の結果、右記のとおりお手続きさせていただきましたので、お知らせいたします。
なお、ご不明な点がございましたら当店までお問い合わせください。

ご連絡欄

0203-1001-VN

作成日 令和 4年 3月21日

貯金種別	お客様番号	口座番号
------	-------	------

利息振替日	令和 4年 3月22日	
利息計算期間	令和 3年 9月21日 より 令和 4年 3月21日 まで	
貯金利息	2	
利子税	国税	0
	地方税	
税引後利息	2	
貸付利息	0	
保証料	0	
利息決算後残高	73.406	

(金額単位：円)

国税には、復興特別所得税が附加されています。

(様式 4)

物品購入等支出報告書

令和4年3月22日

会派代表者 様

会派名 緑風会


氏名 安間 亨

項 目 (該当項目に○印)	1 調査研究費 2 研修費 3 広報費 4 広聴費 5 要請・陳情活動費 6 会議費 7 資料作成費 8 資料購入費 ⑩ 事務所費 (9 人件費は別の任意様式)
金 額	110,000円
支出にかかる内訳 ▶ 品名 ▶ 数量 ▶ 年月日 等	タブレット端末利用負担金 5名 (⑩2,000×11月×5人) 令和3年度
購 入 先	袋井市
支 出 年 月 日	令和4年3月22日 /

※裏面に領収書添付

(会派の広報は、発行後議会事務局に1部提出してください。)

納入通知書・領収書

発行主管課名	総務係	36003
令和 3年度	1	一般会計
科目	款	項
	22	5
		2
		1
		1
		1
伝票番号	0044942 - 001	
納入者住所	袋井市新屋1-1-1	
氏名	緑風会 会派代表者 近藤 正美 様	
下記の納期限までにお支払い ください。		
令和 年 月 日		
袋井市長		
納入期限	令和 4年 3月25日	
納入金額	¥110,000	
納入目的	タブレット端末利用議員負担金	
上記のとおり領収しました。		
袋井市指定金融機関等		
納入場所	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <small>領収券付印</small> 出納済 4. 3. 22 静岡銀行 袋井 </div>	
<small>下記の金融機関の本店又は支店</small> 静岡銀行 遠州中央農業協同組合 スルガ銀行 浜松磐田信用金庫 みずほ銀行 島田掛川信用金庫 清水銀行 静岡県労働金庫		
(納入者用)	静岡県 袋井市	

